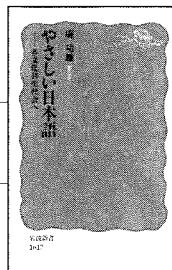


専門用語や難語で語り、書き表すことが、人の知性や社会的地位を象徴するかのような風潮がある。教室でも、こんな言葉も知らないのかと、聞き手である児童生徒を軽んじる場面がなくもない。副題にあるように、本書では多文化共生社会実現のために、移民等外国人にルーツを持つ人々に対する日本語環境の今、課題を追究している。そして同時に、言語の観点から、障害のある人などのマイノリティ（少数者）、さらに、日本語母語話者についての課題にも、「ことば」の問題を通して踏み込んでいる。

やさしい日本語 多文化共生社会へ

（元川崎市立中学校長・青木幸夫）



庵功雄 著
907円 岩波新書
☎03-5210-4000

表現も、きわめて重要な表現の置き換え例等も示されており、なるほどどうなずかされる。ほかにも多くの例示があり、やさしい日本語の大切さを再認識させられる。漢字の問題も含め、あらゆる生活場面、学習活動場面で「日本語から日本語への翻訳」という発想が重要だろう。『やさしい日本語』のやさしいは、易しいだけでなく、優しいでもあるということを確認したい。

マイノリティにとって、漢字の理解は困難な壁の一つになるが、これは子どもたちにとっても同様である。言うまでもなく、「壁」を乗り越える学習も重要である。一方で、すべての人々が対応を迫られる非常災害等の緊急時に接する放送や掲示を含め、誰にとつても分かやすい

効果的に使用している。例えば、「火事場泥棒」においては、「目病みに唐辛子の粉（朝鮮半島）」「不幸は単独では来ない（イギリス）」「木から落ちて牛に突かれる（スリランカ）」「虎を防いで狼に逢う（アフガニスタン）」等、世界中から弱肉強食の理を説く諺を列挙している。そして、「インドネシアのスマトラ沖の地震による大津波の被害について、破壊された家屋の大半は貧しい人々のあはら屋のような木造家屋であり、ここに住んでいた人々のほとんどが居住、家財はおろか命を落としている。一方で、コンクリート

他諺の空似 ことわざ人類学

（元川崎市立中学校長・青木幸夫）



米原万里 著
734円 中公文庫
☎0120-29-9625

人間の経験と知恵が重なりあつて生み出された「諺」は、私達の日常生活や社会生活に深く関わり、様々な場面においても、その効果的に使用されている。本書は、ロシア語の通訳者である著者が世界中の「諺」について、諺の発祥と意味、言語的背景等について詳細な例を挙げて説明している。例えば、「火事場泥棒」においては、「目病みに唐辛子の粉（朝鮮半島）」「不幸は単独では来ない（イギリス）」「木から落ちて牛に突かれる（スリランカ）」「虎を防いで狼に逢う（アフガニスタン）」等、世界中から弱肉強食の理を説く諺を列挙している。この様に、「諺」が現代社会のどういった場面で使用するかを、著者独自の論理で展開している点が单なる「諺辞典」等とは異なつていて読み応えがある。

（愛知教育大学教授・高橋美由紀）



ブック